



■図1、写真1  
現在の薩埵峠。右から東名高速道路、国道1号、東海道本線が併走している。図は歌川広重「東海道五十三次之内由井・薩埵嶺」。富士を望む美しい景色は今も昔も変わらない



# あの頃の風景

## 東海道編 第3回

### 交通の要を地すべりから守る 由比

日本工営株式会社 中央研究所 総合技術開発部  
藤澤久子 FUJISAWA Hisako



■写真2、3—濁り沢地区の地すべり  
上は昭和49年、地すべり直後の写真。台風8号の影響による集中豪雨で、由比町地内各地に山地崩壊地すべり、土石流が発生。後に七夕豪雨と名づけられた。左は昭和58年、排土工、土留工など施工後の様子



■写真4、5—由比町寺尾  
上は昭和49年、七夕豪雨後の町の様子。土砂で道路が埋まっている。24時間雨量は508mmを観測し、静岡気象台創設以来の雨量を記録した。この災害により、政府は8月10日国土庁に「由比地区地すべり対策連絡会」を設置、第3次国営地すべり防止事業の始まりであった。右は現在の町の様子



静岡県の駿河湾沿いに位置する由比は、品川から数えて16番目の宿場町として栄えたところである。当時、中心部には大名が泊まる本陣や人馬提供の間屋場が設けられ、街道沿いには旅籠や茶店などが営まれていた。この街道の面影は、今も町のいたるところに残っている。由比町史によると、ユイという言葉は共同・仲間・交換という意味で古くから用いられており、由比町の由比も、農民や猟師たちが互いに労力を出し合い、地名として自然に残ったのではないかと推察されている。

由比宿と興津宿の間に位置する薩埵峠は、東海道随一の景勝地であるとともに、東の箱根越え、西の鈴鹿越えと並ぶ、東海道屈指の難所としても知られていた。日本武尊が東征の際、険しい山道を駆け上がったため、鞍が破れて置いていったという伝承があるほどである。また、古くから地すべり多発地帯としても知られており、記録として残っている最古のものは、安政元年(1854年)のものである。戦後の災害記録には、毎年のように豪雨、台風による被害が報告されており、その度に人家や畑、道路、鉄道に大きな被害を与えてきた。

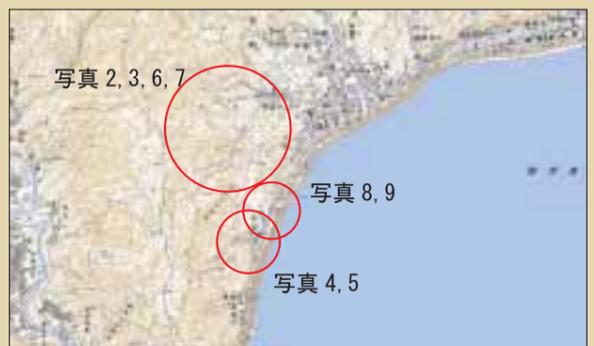
由比町全体の地形を見ると、平坦地は海岸沿いに僅かに見られる程度で、大部分は丘陵や山地に覆われている。町の西端の浜石岳から興津川山地を結ぶ稜線の南東斜面は、中腹より傾斜角が45度以上、それより下方は5~10度のなだらかな斜面であり、典型的な地すべり地形を呈している。この僅かな平坦地に集落が密集し、東名高速道路、国道1号、東海道本線、県道が平行して走っており、さらに山地を貫くように東海道新幹線が通っている。まさにわが国の大動脈密集地帯であり、地すべりや災害によりこの大動脈が分断されることは、交通の大混乱を招き、地域住民だけでなく、社会全体に及ぼす影響が甚大であることは想像に難くない。

戦後の災害の中でも昭和23、36、49年に発生した地すべりは、特に規模が大きく、国の直轄事業として地すべり防止事業をスタートさせる起因となった。第1次から第5次の変更計画を経て、平成17年度からは国土交通省富士砂防事務所に



■写真6、7—濁り沢から地すべり地を望む  
昭和36年、中ノ沢の上部で寺尾沢と結ぶ斜面が大崩落し、下部の地すべりブロックが滑り出し、寺尾沢、中ノ沢が埋没した。移動した土砂

の量は約120万m<sup>3</sup>、東京ドームを埋め尽くすほどの量であった。上は当時の写真で、地すべり上部の整備が行われている様子がわかる。下は現在の様子。一年を通じて温暖な気候で、甘夏みかん、びわの畑が広がっている



■図2—国土地理院発行の2万5千分の1地形図(吉原・蒲原)  
上は現在(H17)の地形図で、海岸沿いに走る2本の太い線が東名高速道路と国道1号である。下は昭和35年頃、高速道路、国道1号もなく、東海道新幹線もない。黒く見えるのは住宅地である

よる直轄地すべり防止事業が進められている。由比地すべり管理センター(静岡県)においては、24時間自動計測システムにより、地すべり地の計測・監視が行われており、交通の要と



人々の安全を守るための努力が日々続いている。今後、地すべり対策事業が完成し、いつ訪れるともしれない災害に備えた町づくりが進められていくことに期待したい。

3回に渡りお届けした東海道を巡る「あの頃の風景」はいかがでしたか。あの頃と今の風景から私たちの国土や生活の変遷を感じていただけたでしょうか。次回は来年4月から川を巡る「あの頃の風景」をお届けします。

<参考文献>  
・第三次由比地すべり防止事業概成記念(関東森林管理局東京分局、由比治山センター)  
・由比町史

<写真提供>  
写真1、図1:由比町役場企画観光課  
写真4、6:由比町公民館  
写真2、3、8:由比地すべり管理センター  
写真5、7、9:筆者